

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

これからの時代を担う子どもたちに必要な能力としてOECDが定義付けている「キー・コンピテンシー、つまり、主要能力〔単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力（具体的には、①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力、②多様な社会グループにおける人間関係形成能力、③自立（律）的に行動する能力）〕及びその考え方を先取りして定められたとも言える学習指導要領において示されている「生きる力」の重要性を踏まえ、校訓「自主自立・共生・創造」のもと、総合学科の特色を生かして、自己を見つめなおし志を持って自己を実現できる生徒を育成する。具体的にめざす事柄としては、以下の4点である。

- ・キャリア教育を通して、将来社会の一員として活躍しようとする姿勢の育成
- ・生徒の希望する進路や興味・関心に応え、基礎的な学力を定着・伸長させるとともに、将来を考えて積極的に選択できる選択科目とカリキュラムの設定
- ・生徒自らが主体性を持って思考し判断し、自分の考えを表現・発表できる授業の実現
- ・人間関係を豊かにし、多様な人々の立場の違いを認め合い、協働して学び合いながら実社会に参画・貢献しようとする態度の育成

## 2 中期的目標

## 1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「わかる授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。
- ア 平成 25 年度に設置した「授業力向上プロジェクトチーム」を核として、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体性を持って多様な人々と協力して学ぶことのできる「アクティブ・ラーニング」へと授業の質的な転換をめざし、「言語活動の充実」「グループワーク」「ICT活用」「反転学習」等を意識しながら授業改善についての研究を進める。
- ※第 2 回目の授業アンケートの全校・全教員共通の質問項目の肯定率が 2 項目とも 70%を切る授業の延べ講座数（平成 27 年度延べ 55 講座）を毎年引き下げ、平成 30 年度のアンケートでは 20 講座以下にする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「授業満足度」（平成 27 年度 60.1%）を毎年引き上げ、平成 30 年度には 75%以上にする。
- (2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組みを推進する。
- ア 「学習カレンダー」「朝の学習」等、これまでに取り組んできた事柄を充実させるとともに、他校の実践に学びながら、効果のある新たな取組みを検討する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間の充実度」（平成 27 年度 48.8%）を毎年引き上げ、平成 30 年度には 65%以上にする。

## 2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実

- (1) 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等の内容とその成果を吟味し、キャリア教育の体系的な全体指導計画をより一層効果のあるものにする。
- ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を核にして、キャリア教育の体系的な全体指導計画をより一層効果のあるものにする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育に関する充実度」（平成 27 年度 78.8%）を毎年引き上げ、平成 30 年度には 90%以上にする。
- イ グローバル人材の育成に資するため、平成 26 年度以降の入学生については、海外修学旅行の推進を継続する。
- ※「海外修学旅行の満足度」に関する生徒向け・保護者向けアンケートを実施し、平成 28 年度以降ともに肯定率 90%以上を維持する。
- (2) 科目選択ガイダンス機能を充実させ、科目選択のミスマッチを少なくし、進路希望と学力に応じた科目選択が実現できるようにする。
- ア 教務部と進路指導部と担任団の連携を強化し、科目選択ガイダンス機能を充実させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」「科目選択の進路希望との適合状況」の肯定率（平成 27 年度それぞれ 63.3% 67.0%）を毎年引き上げ、平成 30 年度にはともに 80%以上にする。
- (3) 確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する 3 年間の全体計画を充実させる。
- ア 進路指導に関する 3 年間の全体計画を充実させるとともに、生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。
- ※学校教育自己診断における「進路指導に関する満足度」（平成 27 年度生徒 62.9%保護者 58.7%）を毎年引き上げ、平成 30 年度には生徒・保護者ともに 77%以上にする。
- ※国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去の連続 3 年間平均の最大値〔102 名〕以上をめざすと同時に、センター試験出願者数について、過去の連続 3 年間平均の最大値〔129 名〕以上をめざす。
- (4) 部活動に関して、充実を図り、生徒の人的成長に寄与できるようにするとともに、生徒の進路実現にも繋げられるよう、より一層活性化させる。
- ア 部活動への参加の促進を図り、活動内容をより一層充実させるとともに、部活動を継続することの大切さを生徒に体得させる。
- ※新入学生徒の「部活動への加入率」（平成 27 年度入学生徒 77.0%）を毎年引き上げ、平成 30 年度には 87%以上にし、平成 28 年度以降、恒常的に新入学生徒の退部率を 5%以下に保つ。

## 3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底

- (1) いじめをはじめとする人権侵害事象が起こらないよう、すべての教育活動を通じて、生命や人権を大切にす精神を徹底する。
- ア 平成 25 年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。
- ※アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」をより一層有効活用し、いじめ事象（それに準ずる事象を含む）発生件数を 0 にする。
- (2) カウンセリングマインドを伴った生徒指導を徹底し、安全・安心で居心地のよい学校環境づくりを推進する。
- ア 共生推進教室をめぐる取組みを充実させるとともに、知的障がいや発達障がいをはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握に関する研修を行い、「合理的配慮」を意識して、生徒に対してよりきめ細かい対応ができる体制を構築する。
- イ より一層、教育相談室や SC の存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。
- ※学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」（平成 27 年度生徒 62.0%保護者 59.3%）を毎年引き上げ、平成 30 年度には生徒・保護者ともに 77%以上にする。
- (3) 遅刻を減らし、安定した生活リズムで学校生活を送れるようにするとともに、挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。
- ア 他校の実践に学ぶなどして、効果のある新たな取組みを導入し、学校全体で遅刻減少のムードをつくる。
- ※年間延べ遅刻者数（平成 27 年度 2,344 件）を毎年引き下げ、平成 30 年度には 1,000 件以下にする。
- イ 挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「貴重品等自己管理意識度」（平成 27 年度 63.0%）を毎年引き上げ、平成 30 年度には 80%以上にする。

## 4 広報活動の充実

- (1) 中学生や中学校、教育産業等に対して、総合学科のよさや学校の日常の教育活動を広報するための取組みを強化する。
- ア 平成 25 年度に創刊した、タイムリーなニュースを満載した新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年 2 回ずつ継続発刊する。
- イ 生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容を充実を図り、参加者数の維持・増加をめざす。
- ※生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会への参加者数の合計（平成 25 年度約 1,200 名、平成 26 年度約 1,240 名、平成 27 年度約 1,070 名）を、恒常的に、1,100（1,000+100）名以上に保つ。
- ※志願倍率（平成 26 年度前期選抜 1.77 倍、平成 27 年度前期選抜 1.57 倍、平成 28 年度一般選抜 1.22 倍）を、平成 29 年度選抜以降、恒常的に 1.25 倍以上に保つ。

## 5 計画的な備品等の更新

- (1) 新たな取組みに必要な備品等や老朽化してきた備品等を計画的に更新していく。

## 全項目の推進・充実によって

## ◆全員進級・全員卒業

入学した生徒すべてが、学校生活に困ることなく、安全・安心で居心地のよい学校生活を過ごし、希望する進路を実現して、卒業できるようにする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○高校生活全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「芦間高校での高校生活に満足している。」の肯定率は、生徒が 84.3%、保護者が 89.0%と昨年度よりさらに上昇し、より一層良好な状況にあると考えられる。</li> </ul> <p>○授業をはじめとする教科指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業は、分かりやすく、内容が充実している。」の肯定率は、教職員が 83.0%であるのに対し、生徒は 67.1%、保護者は 66.2%と、昨年度同様、差はあるが、生徒の肯定率が昨年度よりかなり上昇している。</li> <li>・「魅力ある授業になるよう、指導方法の工夫・改善を行っている。」の肯定率は、教職員が 93.6%であるのに対し、生徒は 58.6%にとどまり、昨年度同様、大きな差はあるが、ともに昨年度よりかなり上昇している。</li> <li>・生徒の「家庭学習の充実度」は 55.8%と昨年度よりかなり上昇し、「自学自習ができるように、授業などで適切な指示を出している。」と回答した 70.2%の教職員の努力や工夫が生徒に届きつつあると考えられる。</li> <li>・これらの結果から、教職員の授業に対する努力や工夫が功を奏してきていると考えられるので、生徒の実態や気持ちにより一層フィットできるよう、引き続き、今後も様々な視点での検討を継続していきたい。</li> </ul> <p>○科目選択について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、総合学科ということもあり、「選択科目が多く、それらを自分で選べるところが魅力である。」の肯定率は、生徒が 84.4%、保護者が 86.6%と昨年度よりさらに上昇し、高水準を維持できている。</li> <li>・また、「科目選択の指導は、きめ細かく適切に行われている。」の肯定率は、教職員が 83.0%であるのに対し、生徒は 69.6%、保護者は 65.2%にとどまり、例年と同様に差はあるが、生徒の肯定率が昨年度よりかなり上昇し、その差は縮まっている。</li> <li>・また、「自分の進路希望に合った科目選択ができている。」の肯定率は、教職員が 83.0%であるのに対し、生徒は 72.1%、保護者は 71.9%と差はあるが、生徒・保護者の肯定率が昨年度より上昇し、指導のきめ細かさ適切さと同様に、その差は縮まっている。</li> <li>・科目選択について、指導のきめ細かさや進路希望との合致等、ガイダンス機能の充実という点で取組みの成果及び改善がみられる。さらなる充実に向けて、引き続き、現在行っている丁寧な指導を継続していきたい。</li> </ul> <p>○進路指導やキャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、総合学科ということもあり、「産業社会と人間」を核として、キャリア教育の推進に力を注いでおり、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の生徒の肯定率は 88.2%、また、『『産業社会と人間』や『総合的な学習の時間』の授業を通して、自分の適性や将来についてよく考えるようになった。』の生徒の肯定率は 75.4%と、いずれも昨年度よりさらに上昇した。</li> <li>・「芦間高校の進路指導には満足している。」の肯定率は、生徒が 65.1%、保護者が 63.3%と昨年度より上昇し、これを含めて、進路指導の充実に関する 4 項目〔項目番号は、生徒用が 11,13,17,18、保護者用が 10,12,16,18〕の肯定率の平均も、生徒が 60.7%、保護者が 61.2%と昨年度より上昇し、初めて 60%を超えた。</li> <li>・ただ、「進路指導面で、家庭への連絡や意思疎通は、きめ細かく行われている。」の保護者の肯定率は、50.2%と昨年度よりかなり上昇し、50%を超えたものの、「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」と回答した教職員が 85.1%（これは昨年度よりは上昇）いることと比べ、依然として大きな隔たりが生じている。</li> <li>・進路指導については、取組みの成果及び改善はみられるが、より一層、生徒や保護者のニーズや期待に応えられるよう、情報発信の充実及び家庭との密な連携等を中心に丁寧な対応が求められていると考えられる。</li> </ul> <p>○生徒指導、教育相談、人権教育等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒指導の方針は理解できる。」の保護者の肯定率は 75.7%、「生活指導面で、適切な指導や注意をしている。」の保護者の肯定率は 78.0%と、昨年度よりかなり上昇し、本校の生徒指導の方針や在り方について、保護者の方々に理解される方向に戻ってきていると考えられる。</li> <li>・「学校行事は、楽しく行えるよう工夫されている。」の生徒の肯定率は 80.8%と昨年度より一気に上昇し、学校側の工夫が生徒の意識に反映される方向に戻ってきていると考えられる。また、「生徒は、文化祭・体育祭などの学校行事に積極的に参加している。」の肯定率は、生徒が 87.1%、保護者が 93.6%と、昨年度よりさらに上昇し、昨年度以上の水準を維持できている、学校行事は充実しているものと考えられる。</li> <li>・「担任の先生以外にも、保健室や相談室等で気軽に相談することができることを知っている。」の肯定率は、生徒が 69.1%、保護者が 61.3%と、近年上昇し続け、保健部や教育相談担当者会議の取組みが功を奏してきており、教育相談体制のさらなる充実資する取組みを継続したい。</li> <li>・「先生は、生徒の意見をよく聞いてくれる。」の肯定率は、教職員が 73.9%にとどまっているのに対し、生徒は 66.4%、保護者は 64.4%と上昇し、受け止めの差が縮まった。また、「芦間高校は、カウンセリングマインドを取り入れた生徒（生活）指導を行っている。」の教職員の肯定率は 74.5%である。より一層、生徒の心や気持ちに寄り添った「カウンセリングマインドを伴った指導」を徹底しなければならぬと考えられる。</li> <li>・「生徒ロッカー鍵自己管理指導完了率」が 91.4%まで達し、また、その成果として、「自分の持ち物の自己管理をするように心がけている。」の生徒の肯定率が 80.5%へと一気に上昇した。</li> </ul>	<p><b>第 1 回 (H28.07.21)</b></p> <p>○生徒の学力向上、教員の授業力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化の中で未知の状況に出会ったときに対応できる人を学校教育で育てるべき。</li> <li>・AL は、主体性の意味を理解させて授業を行うべきであるが、多くの生徒がそのことに気付いていないように思う。</li> <li>・(芦間高で独自に行った『家庭学習時間』に関するアンケート)について)生徒が家庭学習時間についての全体の状況を知り、自分がどの位置にいるのかを知ることが大切。</li> <li>・小・中学校でも調査・分析のフィードバックをしっかりと行っている学校は学力が高い。</li> <li>・「意欲」に関する項目の結果が低い。「学びに向かう姿勢・意欲をつくるには」ということを考えるべき。「関心・意欲・態度」がなければ、自主的な学びも協働的な学びもない。</li> <li>・生徒を意欲的に授業に向かわせるにはどう授業を組み立てていくか、という観点が重要。</li> <li>・理解できていない「躓き」のところに 1 対 1 の学習支援等で発見してケアをしてほしい。</li> </ul> <p>○遅刻者数減少対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の実践をうまく取り入れて、その学校にふさわしい方法で実施すればいい。</li> <li>・スタンプラリーは効果的。用紙を持ち何人もの先生から話を聞く中で気付きが生まれる。</li> <li>・放課後残して理由等を B5 用紙にぎっしりと書かせた。これが続くと、生徒はその作業が嫌になり、遅刻をしなくなる。生徒との関係づくりもでき、指導しやすくなった。</li> <li>・朝 10 分の英語リスニングを行った。遅刻をすると受けられないので早めに登校する。</li> <li>・遅刻を減らすには、学校へ行く価値をどうつくっていくかが課題である。</li> <li>・早く来ることが自分のためになることを訴える、ペナルティーを課す、その両方が必要。</li> </ul> <p>○広報活動の充実について、志願者の獲得について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校では、総合学科についての説明はあまりない、総合学科がなかなか理解されていない、というのが現状。総合学科を理解してもらうという原点に戻った広報活動が必要。</li> <li>・「この進路をめざしている生徒はこんな科目を取りました。」「普通科とはこんなふう違います。」というような説明をすれば、総合学科の魅力が理解してもらえらると思う。</li> </ul> <p><b>第 2 回 (H28.12.25)</b></p> <p>○生徒の学力向上、教員の授業力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AL は「先生の準備したものを生徒にどう理解させるか」「『深い学び』にどう繋げるか」という視点が必要。子ども主体だが「舞台やロードマップをどう作るか」が重要。</li> <li>・授業アンケートに基づく改善策として、「言語活動の充実」、「AL」、「キャリア教育」を入れること。特に、「言語活動の充実」は必ずしなければいけないと捉える必要がある。</li> <li>・教員間の小グループ（教科はバラバラ）内での研究授業、いわゆる「小さな研究授業」が有効。少人数であれば、お互いに授業を見て、空いた時間に協議しやすい。</li> <li>・指導教諭の授業実践を含め、授業の様子を HP に配信することは広報として効果的。</li> </ul> <p>○キャリア教育、進路指導の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育は、これからの子どもには重要。AL はキャリア教育において行うことが効果的であり、その意味ではジョブカバリーや 4000 字論文は面白い。</li> <li>・自尊感情の低い生徒が多い。生きる力を付ける必要がある。</li> <li>・芦間高校への志願者は進学を意識した生徒が多い。中堅私立大学の合格実績が鍵である。</li> </ul> <p>○遅刻者数減少対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝早く登校し学校で勉強するよう指導できないか。遅刻は自分にとって損であるという意識付けが重要。保護者や中学校と連携し、「芦間は時間に厳しい」と思わせること。</li> <li>・中学時代に遅刻や欠席がほとんどない生徒が芦間に進学している。個々の生徒で事情は違うだろうが、総合学科で自分のよさを掴めるよう、個々に適切な指導をお願いしたい。</li> <li>・生徒の実状に合った遅刻指導をすべき。</li> </ul> <p>○広報活動の充実について、志願者の獲得について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の一環として広報活動をすべき。芦間に来てどれだけ頑張ったのか、個人レベルでの成果も HP で発信すべき。ジョブカバリーの発表などは、中学生よりむしろ保護者が感心する。そのあたりを強調することによって差別化を図ることができる。</li> <li>・自分の行きたい学校をしっかりと調べて、求める人材を知って受験することは、学校選択においては有効。アドミッションポリシーに基づく入試を実効化していく必要がある。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標化しにくい部分について、より明確にする方が、保護者にも理解しやすい。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントが重要。単線的でなく複線的な学びを。保護者、地域、生徒、他校生、公的機関、学習塾などを学校が主体となって関連させていくこと。</li> </ul> <p><b>第 3 回 (H29.03.22)</b></p> <p>○生徒の学力向上、教員の授業力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己診断の数値だけでなく、数値の裏側にあるものを考察しながら、教育活動を行ってほしい。また、評価としてではなく、学校をよくするための参考と考えた方がよい。</li> <li>・民間教育産業が実施している学力生活実態調査の資料を学校協議会に提出している学校もある。他校や全国との比較ができ、該当校の生徒の特徴を的確に捉えることができる。</li> <li>・学びが画一的になっては意味がないので、アクティブ・ラーニングであっても画一的にならないように、個々の生徒にとって意味のある学習にすることが肝要である。</li> <li>・家庭学習を身に付けさせることはなかなか難しい。家庭学習の先にあるものは何か、ということを生徒に理解させないといけない。</li> </ul> <p>○キャリア教育、進路指導の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の取組みは効果的であり、単に出口を見つけるだけでなく、大学へ進んだ後、社会でどのように自立しているか、芦間高校で学んだことがどのように活かされているか、について、卒業生に話をしてもらうことを実行してみたいのではないかと。</li> <li>・保護者への進学指導という点について、塾での感覚では、子どもが主体的に考えて「子どもが行きたいところへ行かせる」という保護者が多い。子どもが満足していれば、それに伴って保護者の満足度も上がるのではないかと。</li> </ul> <p>○安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、生徒の生活規律・自己管理等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他校では、遅刻が減って、進学率が上がった学校があった。遅刻指導については、より一層、頑張っていたらいいと思う。遅刻と学習とは、連動するところがある。</li> <li>・いじめについては人権に関する教育が必要。自分では傷つけていると思っていないことが、相手を傷つけていることがある。人権教育と捉えて予防的なものを行うことが肝要。</li> <li>・認知的な学力に加えて、根気強くやるといった非認知的な能力が高くなれば学力にも影響を与える。「遅刻をしないで毎日来る」等、継続的に努力をすることも非認知的な能力。</li> </ul> <p>○広報活動の充実について、志願者の獲得について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の頑張りをもっと中学生の保護者に見せてもいいのではないかと。教員の行っていることをアピールすると、中学校や塾の先生は評価してくれると思う。</li> <li>・こういう学校だということを知ってもらうには時間がかかる。中学生の保護者は、高校の情報を得にくい。高校に関する情報を中 3 生だけでなく中 2 生にまで届ける必要がある。この学校の学びを理解してもらうための広報活動を根気強く行う必要がある。</li> </ul>

## 府立芦間高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1)「わかる授業」 「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善への取組みの充実 ア 「授業力向上PT」を核に「アクティブ・ラーニング(AL)」へと質的な転換をめざした研究授業等の実施 イ 授業アンケートを活用した授業改善の取組み (2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組みの推進 ウ 「学習カレンダー」「朝の学習」等これまでの実績を含めた効果のある取組みの確立 エ 家庭学習時間を教員が把握するためのシステムの確立</p>	<p>(1) ア・授業力向上に関する校内研修を実施するとともに、ALの先進実践校を視察する。 ・府教育Cの支援も受けながら、各教科が、「わかる授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をテーマとし、ALへと質的な転換をめざした研究授業に取り組む。 イ・各教科が、授業アンケート結果に基づき、課題の分析、課題解決のための改善策の構築、その改善策の効果の検証を行い、HP等で公開する。課題解決のための改善策としては、「①言語活動の充実」「②グループワーク」「③ICT活用」「④反転学習」等を取り入れる。 (2) ウ・学校経営委員会において、他校の実践についての情報を得ながら、家庭での学習習慣を身に付けさせるための効果的な取組みを引き続き検討する。 ・「学習カレンダー」「朝の学習」は各学年が確実に実施する。 エ・家庭学習時間を生徒が記録し教員が把握するためのシステムの構築を検討する。</p>	<p>(1) ア・校内研修を1回以上実施。また、ALの先進実践校を1校以上視察。 ・各教科において、「AL推進者」を設けてALを推進し、ALへと質的な転換をめざした研究授業を実施(11月までに)。 ・生徒向け自己診断における「授業満足度」65%以上(平成27年度60.1%)。 イ・全常勤教員が左の①②③④のいずれかをとり入れた取組みを少なくとも1回実施し、それをHPで公開。 ・第2回目授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目」の肯定率が2項目ともに70%を切る授業の延べ講座数40講座以下(平成27年度55講座)。 ・第2回目授業アンケートの「質問項目3～9の評価の平均値」の全教員平均3.22以上(平成27年度3.17)。 (2) ウ・他校の効果的な取組みの情報収集3校以上。学校として取り組む、家庭学習の充実に関するより一層の改善策の構築。 ・「学習カレンダー」「朝の学習」を各学年で実施。「朝の学習」は、1・2年で週2回以上実施、3年で週1回以上実施。 ・生徒向け自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する2項目」の肯定率の平均55%以上(平成27年度48.8%)。 エ・家庭学習時間を生徒が記録し教員が把握するためのシステムの構築。</p>	<p>(1) ア・校内研修を2回実施済〔講師：他県立総合学科高校教諭、府教C指導主事等〕。(◎) AL先進実践校を3校視察済〔他県立高校〕。(◎) ・11月までに各教科において「AL推進者」を中心に研究授業を実施済。(○) ・AL推進の結果、生徒向け自己診断「授業満足度」は67.1%と上昇し、目標を上回った。(◎) イ・全常勤教員の約63%が実践レポートを作成済。HPで公開した。(△) ・該当述べ講座数は70であり、うち担当者が教諭の分は47である。(△) ・該当指標値は3.14であり、教諭のみの平均は3.15である。(△) (2) ウ・他校の情報収集は3校実施済〔他県立高校〕。(○)「勉強に関するアンケート」を2回実施済。生徒へのフィードバック方法を今後継続検討。(△) ・「学習カレンダー」は、3年は実施済、1・2年は春休みに実施。「朝の学習」は、1年で週2回、2年で週3回、3年で週1回実施。(○) ・生徒向け自己診断「家庭学習充実度」は55.8%と上昇し、目標を達成。(○) エ・「勉強に関するアンケート」を2回実施済。来年度も活用を継続。(○)</p>
2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実	<p>(1)「産社」や「総学」等、キャリア教育の体系的な全体指導計画の充実 ア より一層効果のある全体指導計画の検討・再構築 イ グローバル人材育成のための海外修学旅行の推進 (2) 科目選択ガイダンス機能の充実 ウ 教務部と進路指導部と担任団の連携の強化 (3) 進路指導の全体計画の充実、保護者との密な連携 エ 進路指導の全体計画の充実 オ 家庭と学校との密な連携 カ 生徒・保護者の希望やニーズに沿った進路実現 (4) 生徒の人間的成長や進路実現に繋がる部活動の充実・活性化 キ 部活動への参加の促進及び活動の継続の推進</p>	<p>(1) ア・体系的な計画を検討するための組織の機能を充実させ、学習意欲の向上や進路意識の高揚、科目選択の充実に確実につながる「産社」「総学」のより一層効果のある全体指導計画を検討し再構築する。 イ・平成26年度以降入学学生について、海外修学旅行の推進を継続する。 (2) ウ・科目選択の指導において、生徒や保護者が満足するよう、きめ細かく丁寧に指導する。 ・教務部と進路指導部と担任団の連携の強化により、自分が決めた選択科目(時間割)に対して生徒が自信と愛着をもてるようにする。 (3) エ・確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を充実させる。また、多様な進路先を確保できるように努める。 オ・生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。 カ・進路指導システム「ASMサポートシステム」をより一層充実させる。 (4) キ・部活動への参加を促進し、継続することの大切さを体得させる。</p>	<p>(1) ア・検討組織の機能の充実。「産社」「総学」のより一層効果のある全体指導計画の検討・再構築。 ・生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育の充実に関する2項目」の肯定率の平均83%以上(平成27年度78.8%)。 イ・「海外修学旅行の満足度」に関するアンケートを実施し、実施学年の生徒・保護者ともに90%以上。 (2) ウ・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率70%以上(平成27年度63.3%)。 ・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択の進路希望との適合状況」の肯定率70%以上(平成27年度67.0%)。 (3) エ・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」生徒・保護者ともに67%以上(平成27年度生徒62.9%保護者58.7%)。 オ・保護者向け学校教育自己診断における「進路指導面での家庭との連携のきめ細かさ」の肯定率55%以上(平成27年度44.7%)。 カ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去の連続3年間平均の最大値〔102名〕以上。 ・センター試験出願者数について、過去の連続3年間平均の最大値〔129名〕以上。 (4) キ・新入学生徒の「部活動への加入率」81%以上(平成27年度77.0%)、退部率5%以下。</p>	<p>(1) ア・昨年度の「産社」の再構築に引き続き、今年度は「総学」特に総学4,000字論文の再構築。平成28年度府教C研究フォーラムで成果発表。(○) ・生徒向け自己診断「キャリア教育充実度」は81.8%と上昇し、ほぼ目標を達成。(○) イ・生徒アンケートでの満足度97.3%。諸事情により修学旅行実施時期が大幅に遅れたため、保護者アンケートは実施せず。(○) (2) ウ・該当学年担任団が教務部と連携し、丁寧な科目選択ガイダンスを実施。生徒向け自己診断「科目選択指導適切度」は69.6%と上昇し、ほぼ目標を達成。(○) ・該当学年担任団が教務部及び進路指導部と連携し、ミスマッチを防ぐための検討を実施。生徒向け自己診断「科目選択進路希望適合度」は72.1%と上昇し、目標を上回った。(◎) (3) エ・該当学年担任団が進路指導部と連携し、丁寧な進路指導を実施。自己診断「進路指導満足度」は生徒65.1%保護者63.3%と上昇したが、目標には届かず。(△) オ・該当学年担任団が進路指導部と連携し、丁寧な保護者対応を実施。保護者向け自己診断「進路指導家庭連携度」は50.2%と上昇したが、目標には届かず。(△) カ・「ASMサポートシステム」をより充実させ、その責任部署を明確化し、生徒の進路実現に向けて指導。国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計は89名と昨年度より上昇したが、目標には届かず。(△) ・センター試験出願者数は128名で、ほぼ最低目標を達成。(○) (4) キ・新入生の加入率76%、退部率4.3%。(△)</p>

## 府立芦間高等学校

<p>3 理の徹底</p> <p>安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管</p>	<p>(1) 生命や人権を大切にす精神の徹底</p> <p>ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた学校運営</p> <p>(2) カウンセリングマインドの徹底等、安全で安心な居心地のよい環境づくり</p> <p>イ 生徒の「困り感」の把握の徹底等、「合理的配慮」を意識したきめ細かい対応ができる体制づくり</p> <p>ウ 相談室の存在の周知等、教育相談機能全般の充実</p> <p>(3) 遅刻減少等、生活規律・自己管理の力の向上</p> <p>エ 効果のある新たな遅刻対策の導入</p> <p>オ 挨拶・服装・貴重品管理等、生徒の生活規律・自己管理の力の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・平成 25 年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。</p> <p>(2)</p> <p>イ・校内研修を行い、「合理的配慮」を意識して、障がいのある生徒をはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握や解決により一層尽力する。</p> <p>ウ・より一層、教育相談室やSCの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。</p> <p>(3)</p> <p>エ・遅刻減少対策について、他校の実践の情報収集をするなどして、効果的な取組みを引き続き検討する。</p> <p>オ・挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「学校いじめ防止基本方針」に基づいた学校運営ができているか否かについて「いじめ防止及び対策委員会」で評価。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談担当者会議と連携して、校内で啓発に資する取組みを実施。</li> <li>・生徒アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」への生徒の記述状況[いじめ事象(それに準ずる事象を含む)発生件数0]とその内容に対する対応等。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>イ・校内研修を1回以上実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「合理的配慮」を意識して、特別支援教育委員会の機能を充実させ、年間10回以上会議を開催。</li> <li>ウ・外部人材活用(SC等)の拡充に向けた具体的な検討の進捗状況。</li> <li>・学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」生徒・保護者ともに67%以上(平成27年度生徒62.0%保護者59.3%)</li> </ul> <p>(3)</p> <p>エ・他校の効果的な取組みを活かし、学校として取り組む、遅刻減少に関するより一層の改善策の構築。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会等、生徒自らが企画する、遅刻減少に向けた取組みの実施。</li> <li>・年間延べ遅刻者数1,950件以下(平成27年度2,344件)。</li> </ul> <p>オ・生徒向け学校教育自己診断における「貴重品等自己管理意識度」70%以上(平成27年度63.0%)。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・いじめ事象については、「いじめ防止及び対策委員会」で協議し、該当の生徒等への指導を実施している。未然防止の観点で、「いじめ防止及び対策委員会」の機能の再点検及び学校運営全般の再点検が必要。</p> <p>(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年、学年主導で啓発HRを実施。府教庁9月発出のいじめ啓発映画関連資料を用いた啓発SHRも実施。(○)</li> <li>・生徒アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」では、特に問題となる事案の発覚はなかったが、未然防止の観点から、学校運営全般の再点検が必要。(△)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>イ・7月に心療内科医を、8月に臨床心理士を講師として招聘し研修を実施済。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育委員会を年間5回開催。(△)</li> <li>ウ・心療内科医、臨床心理士、ホスピタルアート専門家との連携を実施。(◎)</li> <li>・自己診断「教育相談機能充実度」は生徒67.8%保護者62.9%と上昇したが、保護者の数値は目標には届かず。(△)</li> </ul> <p>(3)</p> <p>エ・他校の情報収集は3校実施[他県県立高校]。</p> <p>(○) 来年度に向けて他校の実践を新たに取り入れる方向で検討を継続中。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に、遅刻減少に資する取組み「おはよう運動」を実施。(○)</li> <li>・年間延べ遅刻者数は2,831件で、昨年度に比べて約450件増。後追いでない抑止力の伴った指導システムへと抜本的改革が急務。(△)</li> </ul> <p>オ・「生徒ロッカー鍵自己管理指導完了率」91.4%。生徒向け自己診断「貴重品等自己管理意識度」は80.5%と一気に上昇し、目標を大きく上回った。(◎)</p>
<p>4 広報活動の充実</p>	<p>(1) 総合学科のよさや学校の日常の教育活動の広報の強化</p> <p>ア タイムリーなニュース満載の新広報誌の年2回継続発刊</p> <p>イ オープンスクール等や中学校等教員対象説明会の内容の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・平成 25 年度に創刊した、タイムリーなニュースを満載した新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年2回ずつ継続発刊する。</p> <p>イ・生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年2回発刊。</p> <p>イ・生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会への参加者数の合計1,100名以上(平成26年度約1,240名、平成27年度約1,070名)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクールや学校説明会への参加者を対象としてアンケートを実施し、肯定的回答95%以上。</li> <li>・中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実と参加者数の維持・増加(平成27年度中学校教員約45名、塾教員約35名)。</li> <li>・志願倍率1.25倍以上(平成28年度一般選抜1.22倍)。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・アクティブ・ラーニング等、授業内容・授業方法等に関する内容をより充実させて、8月下旬と12月上旬の計2回発刊し、関係中学校や関係塾に送付済。(◎)</p> <p>イ・外部[市区P協主催・中学校主催・塾主催等]での学校説明会へのスタッフ動員を充実させ、オープンスクール参加者数確保に奔走。オープンスクールや学校説明会への参加者数の合計は約1,330名。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの肯定率は、第1回分が約99%、第2回分が約98%と目標を上回った。(◎)</li> <li>・ALの推進や入試の状況等を説明内容に盛り込んだ。参加者は、塾教員が約30名で微減、中学校教員が60名弱で大幅増。総じて目標を上回った(◎)</li> <li>・志願倍率は、1.13倍で、普通科の平均倍率を上回ることができたが、目標には届かず。(△)</li> </ul>
<p>充実によって</p>	<p>◆全員進級・全員卒業</p>	<p>◆入学した生徒すべてが、安全・安心で居心地のよい学校生活を過ごし、進級・卒業できるようにする。</p>	<p>◆在校生の全員進級・全員卒業</p>	<p>◆転学者1名[1年(理由:積極的な進路実現のため)]、退学者1名。(△)</p>